

一

問一 ア ちょうしょう イ 挙動 ウ 否応 エ 養育 オ 識別 カ いしゆく

問二 私はみんなに興味を持たれているという真っ当な自信を土台としてナチュラルな感じのよさを持つことによって、社会と同化しているから。

問三 「社会から漏れ落ちている」と思っている人は、「漏れ落ちた自分を他者はどう見るか」という再帰的視点を持っており、この視点が他者の視線への配慮を含むから。

問四 近代化が達成され、近代化の装置としての学校がその目的を失い、登校する意味が自明でなくなったから。

問五 この議論によれば、他者の態度を内面化することによって人は社会の一員となるが、不登校の子どもは他者の態度を内面化しているからこそ、社会とつながりにくくなっているから。

二

問一 神々に初物を捧げるという原始社会における富を費やす活動は、何らかの利益を獲得するためになされているのではなく、その活動自体を目的とした非生産的な行為であるということ。

問二 ある者から別の者への生活財・象徴財の贈与で始まって、その贈与がさらに別の者に連鎖的に行われ最後には元の者に戻ってくるという循環的交流・交易であり、贈与と交換の両義性を有しているという特徴。

問三 自分が所有する大切な富を、それに固執せず見返りを求めないで手放すという原始社会における贈与の特徴が、大切な生産物をただ神の栄光にあずかるために有用性を度外視して捧げるという供犠の特徴と類比性を持つという関係。

問四 牧畜の作業のなかで「家畜」という人間に役立つ対象へと変化させられた羊を非生産的に殺害することによって人間による支配から解放し、羊に生命存在としての本来のありようを回復させるということ。